

# 近畿大学医学部附属病院輸血・細胞治療センター(旧輸血部)業務の変遷

## 輸血をめぐる社会の動き

## 輸血業務の変遷

ガラス瓶採血からバッグ採血へ 1975	<b>1975</b>	1975 近畿大学医学部附属病院輸血部設立 1975 交差適合試験・抗体スクリーニングに間接クー姆斯法導入 1977 成分採血装置ヘモネティクスモデル30導入 供血者による院内血小板採取開始 1978 HLAタイピング開始
	<b>1980</b>	1981 HLA抗体スクリーニング開始 1982 成分採血装置ヘモネティクスモデルV50導入(院内血小板採取) 1983 輸血副作用の原因調査開始 1984 輸血後NANB肝炎調査実施
献血に400ml採血と成分採血導入 1986 日赤製剤にHIV抗体検査導入 1986 日赤製剤にHCV抗体検査導入 1989	<b>1985</b>	1985 輸血検査システム導入 1986 成分採血装置 IBM 2997 導入 血漿交換開始 1989 末梢血幹細胞採取開始 1989 貯血式自己血輸血開始
エリスロポエチン臨床応用 1990 G-CSF臨床応用 1991 日赤供給製剤がCRCからRC-MAPへ 1992 自己末梢血幹細胞移植保険適応 1994	<b>1990</b>	1991 X線照射装置導入, 血液製剤への照射開始, MPHA法で抗血小板抗体スクリーニング開始 1991 洗浄血小板調整開始 1992 成分採血装置COBEスペクトラ導入 (末梢血幹細胞採取・血漿交換) 1994 末梢血幹細胞の輸血部管理開始(採取・保管・検査・解凍)
血液照射保険適応 1994 臍帯血移植保険適応 1996 日赤製剤にNAT検査導入 1997 日赤で照射血供給開始 1999	<b>1995</b>	1995 妊婦健診に赤血球・血小板抗体スクリーニング導入 1997 輸血同意書義務化, 血液対策委員会を輸血療法委員会に名称変更 1999 輸血検査24時間体制(中央臨床検査部と合同)
同種末梢血幹細胞移植保険適応 2000 生物由来製剤感染等被害救済制度開始 2004 輸血学会近畿支部I&A開始 2004	<b>2000</b>	2000 血液製剤の病棟搬送開始, 輸血管理システム(ビトラス)更新 2003 全自動輸血検査機器導入, 輸血オーダーリングシステム導入 2004 輸血前検体保管開始 2004 PDAによる輸血認証システム導入, 日本輸血・細胞治療学会I&A当院認定
輸血管理料保険適応 2006 日赤製剤すべて白血球除去実施 2007 日赤製剤すべて初流血除去実施 2008	<b>2005</b>	2005 新鮮凍結血漿の解凍後出庫開始 2006 ADAMTS13の測定開始 2008 電子カルテ導入, アルブミン製剤管理を薬剤部から輸血部に移管 2009 日本輸血・細胞治療学会I&A更新, 院内輸血監査委員会設置
洗浄血小板保険適応 2012 日赤製剤にHBV,HCV,HIVで個別NAT導入 2014	<b>2010</b>	2011 手術部検査室, 採血室への検査技師の出向・輸血部単独での当直体制開始, フロー-PRA測定開始 2012 輸血部から輸血・細胞治療センターへ名称変更, 成分採血装置テルモBTC スペクトラ設置 2012 輸血管理料保険請求開始, 地域連携病院との連携活動 2013 全自動輸血検査装置更新, 輸血管理システム(ルーバ)更新, 赤血球抗体保有患者への説明開始 2014 成分採血装置テルモBTC オプティア設置
希釈式自己血輸血保険適応 2016 自己血回収術保険適応 2018 自己クリオプレシビテート作成術保険適応 2018 コンピュータークロスマッチ保険適応 2018 同種クリオプレシビテート作成術保険適応 2020	<b>2015</b>	2015 全血漿分画製剤管理を薬剤部から輸血・細胞治療センターに移管 2016 フローサイトメーターをBD FACSCanto IIに更新 2018 同種クリオプレシビテート運用開始